

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月1日

事業ID:2023005864

事業名:愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」(A)コミュニティモデルの運営(2年目)

団体名:特定非営利活動法人えがお咲く丘

代表者名:理事長 池田直樹

TEL:052-750-1802

事業完了日:2023年3月31日



■契約時

事業費総額	:	7,200,000 円
自己負担額	:	177,147 円
助成金額	:	7,200,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	7,377,147 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	177,147 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	7,200,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

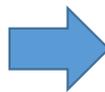
■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」(A)コミュニティモデルの運営
(1)時期:2023年4月1日~2024年3月31日(週3日、9時から18時まで開所)
(2)場所:愛知県名古屋市
(3)対象:20名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。スポーツやアウトドア活動、食育体験等を通じて、子どもに多様な経験を提供する。

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」(A)コミュニティモデルの運営
(1)時期:2023年4月1日~2024年3月31日(週5日、9時から19時まで開所)
(2)場所:愛知県名古屋市
(3)対象:20名(家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年中心)
(4)内容:子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。スポーツやアウトドア活動、食育体験等を通じて、子どもに多様な経験を提供する。



(3)成功したこととその要因

事業を実施し成功したことと、その理由を記載してください。

(4)失敗したこととその要因

問題を抱える子どもたちの利用も少しであるが、増えてきていたが、最近、利用がなくなってしまった。

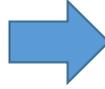
(5)事業内容詳細

愛知県名古屋市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

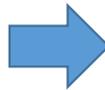
(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

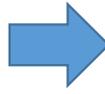
(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

- 1:2024年3月31日までにの一日平均利用児童数を15名にする。
- 2:ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供。
- 3:子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に1回実施する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	265	文字数チェック	OK
<p>1:子どもたちの利用数は、学童小学生平均8名、子育て広場の利用数は、4組程度となり、目標達成とは行かなかった。前年度と比べると増加はしているが、もう少し利用数が伸びてくれると嬉しかった。</p> <p>2:行政との連携については、数度、拠点に訪問してくれ、状況を伝える機会を設けることができた。地域との連携は、中村区社会福祉協議会と連携し、同じ区内にある機関と協力できるように定期的に会議を開催している。</p> <p>3:子どもたちの経験不足の補完については、子どもたちと登山に出掛けたり、子どもマルシェを実施したり、子どもたちが主になれるようにした。</p>			



3.事業実施によって得られた成果

様々活動を通して、施設の認知度も高くなり、新規の方、リピーターの方も、利用が増えてきている。

子育て広場では、たくさんのイベントを行うことができ、未就学児と保護者たちも楽しめる姿が見られた。楽しく参加できましたなど、嬉しいコメントを受けとることができた。

登山、子どもマルシェ、マイクラ、子ども食堂などを通じて、子どもたちが自ら進んで参加する姿が見られ、自分たちで考える力が伸びてきているなど実感することができた。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

最近、見学にきた保護者から、施設のことを知りませんでっしたということを知り、まだ周知が足りないのだなと感じることがあった。さらに地域に根付いた施設となれるように、SNSにて活動報告をし、関連施設へチラシ設置、ビラ配りを行っていく。

数名、課題を抱えた子どもたちが、えがおの架け橋を利用してきていたのだが、数回利用すると、来なくなってしまうことが続いている。スタッフと、話し合いをし、何が原因なのかを考えて対策を感が考えていきたい。

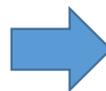
5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

えがおの架け橋紹介パンフレット
完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

えがおの架け橋紹介パンフレット300枚
完了報告書



(3)未作成となった要因

なし

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。